

令和2年度 中原地域計画



小学生による稲刈り体験 初めての収穫に大喜び！

令和2年10月

中原まちづくり協議会

1. 中原地区の概要

(1) 地域特性

【地理】

中原地区は、その名の通り、伊勢平野の真ん中にあり、三渡川の北岸に位置します。地区を横断する県道508号線（白山小津線）は、地区内では旧初瀬街道であり、松阪六軒から伊勢街道を分かれて大和へ向かう始まりの地となります。

【農業】

田園風景が広がる中原地区の中心は「農業」。稲作の他にも、おいしいと自慢の嬉野大根をはじめ、なばなやブロッコリーなど、ハウス栽培も含め、野菜類が多く生産されています。農業人口が減っている中で、中原には、専門に農業を営む方もあり、数は少ないですが、若い後継者も生まれています。

また、農業にはかせない水を確保するため、中原には古くから、ため池が作られており、黒野地域等を中心に数多くあります。昔の人々の苦労と知恵のおかげで、今の中原地区の農業があるといえます。その代表が算所の三つ池で、公園として地域の憩いの場ともなっています。アンケートの声でも、のどかな風景、豊かな自然環境、静かで暮らしやすいと、いいところとしてあがっています。

算所自治会による三つ池の花いっぱい運動



【文化・行事】

中原地区に残る伝統行事に、津屋城の「でこさん」があります。元禄時代から始まったとされるこの行事は、台風や高潮で作物が不作のときに、紀州藩松阪領の代官さんが年貢を許してくれたことを感謝するものです。男の子が緋の着物に袴姿で、菊や南天に飾られた「でこさん」の山車を担いで家々を回ります。子どもが少なくなった現在では、台車を使ったり、女の子も参加したりして、この300年も続く行事を存続させています。

その他にも、正月に行われる黒野の獅子舞や、どんど、山の神、盆踊りなどの伝統行事が各地域で行われています。地区全体としては、「地区民運動会」、「地区文化祭」、育成会活動である「餅つき大会」、「白米城へ登ろう」が数十年にわたる恒例行事となっています。



旧暦10月15日に行われる津屋城でこさん

(2) 基礎データ

【中原地区人口推移】

	平成 7 年	平成 1 7 年	平成 2 7 年	令和 2 年度
嬉野黒野町	661	607	518	483
嬉野算所町	309	319	303	280
嬉野須賀領町	236	586	588	586
嬉野田村町	724	440	378	337
嬉野津屋城町	1, 454	1, 327	1, 149	1, 074
合 計(人)	3, 384	3, 279	2, 936	2, 760

【令和 2 年度町別男女別人口】

		人口計 (人)	世帯数	年齢 3 区分別人口 (人)		
				0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
嬉野黒野町	男	234		26	132	76
	女	249		17	123	109
	計	483	203	43	255	185
嬉野算所町	男	139		16	77	46
	女	141		14	71	56
	計	280	118	30	148	102
嬉野須賀領町	男	293		56	155	82
	女	293		42	150	101
	計	586	247	98	305	183
嬉野田村町	男	158		13	81	64
	女	179		13	91	75
	計	337	161	26	172	139
嬉野津屋城町	男	510		42	279	189
	女	564		55	269	240
	計	1, 074	503	97	548	429
合計 (人)		2, 760	1232	294	1, 428	1, 038

中原地区の人口推移は、平成 7 年国勢調査からみると、25 年余りで 624 人が減少しています。令和 2 年度の高齢化率は 37.6%で、全国の 28.7%より高く、年々の人口減少とともに、少子高齢化が進んでいます。

(3) 地域の主な課題

令和2年に入り、世界中で、新型コロナウイルス感染という新たな課題に直面しています。イベントの中止や密をさけるなど、コロナ禍の中で新しい生活様式が求められるようになりました。中原まちづくり協議会では、「防災」と「福祉」をキーワードとし、様々な事業に取り組んでいますが、すべてにおいてコロナ対策という課題がプラスされることになりました。

【福祉 高齢になっても元気に暮らすために】

○高齢化が進んでおり、一人暮らしや夫婦だけの高齢者が多く、食事や栄養の心配や、日常生活、買い物の不便などの問題があります。地域での見守り体制や食事の配給などの支援策が必要です。

○高齢者の免許返納も増えてくることから、公共交通（コミュニティバス）を考えていく必要があります。

○高齢化とともに外に出ることが億劫になりがちなうえに、コロナ禍もあり、人とふれあうことが少なくなっている状況です。いくつになってもいきいきと暮らせるよう、気軽に集まれる場所や人とのコミュニケーション、生きがいがづくりが求められます。

【防災 一人の犠牲者も出さないために】

○中原まちづくり協議会では、元年度の地域の元気応援事業補助金を受け、避難経路の見える化、家具固定などに力を入れて防災対策に取り組んでいますが、コロナ禍、市の避難所の見直し等で新たな課題もみえてきました。

高齢者や障がい者の方の避難をどうするか、避難所は安全か、避難所運営はどうかなど、まだまだ取り組んでいくべきこともあり、また、毎年の訓練は欠かせません。

必ず襲ってくる南海トラフ地震の大規模災害に備え、中原地区が一体となって取り組んでいく必要があります、そのためには、防災意識の醸成とコミュニティづくりが重要です。そして、災害時においては、中原地区だけではなく、近隣地区との連携・協力が不可欠であり、今からの地域間協定や連携への働きかけが大切と考えています。

【環境 安全で暮らしやすいまちに】

○各自治会で「空き家」が目立ってきています。防犯上の問題もありますが、老朽化が進み、塀が倒れそうになったり、壁がくずれそうになったりしており、災害時の被害増大や、近所への被害が予想され、対策が急務です。

○中原長寿会が中心となって小学校の登下校の見守り活動を行っていますが、竜王野地域など道路改良が進んでいない箇所もあり、交通事故等が心配されます。

○高齢化や空き家に伴い、草刈りができないなどの理由から荒地や雑草が目立ち、衛生面、環境美化の面で問題が生じており、地域で対策を考えていく必要があります。

○子どもたちへのアンケートでは、遊び場とコンビニが欲しいという声が多くありました。未来を担う子どもたちには、安全で安心して遊べる場、創造と体験が育める機会が必要です。

2. 地域の将来像

～力を合わせて育てよう 元気で明るい中原～

絆が生み出す 安全と福祉のまち

【将来像の考え方】

中原まちづくり協議会の設立当初から「元気で明るい中原」をモットーに、地域行事やまちづくり活動に取り組んできました。「中原グルメフェスティバル」を中心に、中原の農業と食をみんなで盛り上げ、子どもたちへも農業体験等を通じて、人と自然へのふれあいの大切さ、感謝を伝えました。

そうした活動が少しずつ元気で明るい中原を創りつつありますが、コロナ禍に対応した新しい生活や大災害への対策など、ますます人と人とのつながりや、助け合いが重要になってきています。将来にわたって、中原地区のみんなが力を合わせ、一体となって事業に取り組んでいくことで、誰もが安心して暮らせる元気なまちを目指します。

少子高齢化を止めることはできません。そして、誰もが歳を重ね、「老い」を迎えます。この中原地区で一緒に歳を重ね、支えあって老後を楽しく暮らしていけるように、地域ぐるみで取り組んでいきます。また、この地区の未来をつないでいくためには、「子ども」の健やかな育ちが重要です。今の私たちが、子どもたちのために伝えていくべきもの、一緒に創っていくべきものに、学校や様々な機関と連携しながら、地区全体で取り組みます。



地区民運動会 恒例の綱引き対抗



芋掘り体験 たくさん採れたよ



異世代交流会でのカローリング



みんなで頑張った 白米城に登ろう!!

3. 地域の目指す姿

(1) 中原の自慢を次代につなぐまち《 総務広報部会・開発企画部会 》

中原グルメフェスティバルや子どもたちへの体験活動などを実施し、世代間や地域の絆を深めます。子どもたちの遊び場づくり、コミュニティバスのルート考察など、地域活性化に向けた、また課題解決に向けた事業を企画・推進します。その内容や当協議会の活動について、地域の内外に情報発信し、中原の元気につなげます。

(2) 体力づくりで笑顔と元気あふれるまち《 体育部会 》

地域のみんなが健康でいきいきと笑顔で暮らせるように、スポーツ事業を企画・実施するとともに、地域コミュニケーションの活性化を図ります。

(3) 生きがいとふれあいが弾むまち《 文化教育部会 》

あいさつ運動を啓発し、子どもたちと高齢者の交流を図ります。また、生涯学習の発表の場として、文化祭や子どもたちとのふれあい活動を行い、地域文化の底上げに挑戦します。

(4) 自然と人をいたわるまち《 福祉環境部会 》

高齢になっても、体が不自由になっても、ずっとここで暮らしていきたいとみんなが思えるよう、そのために支えあっているよう、敬老事業やサロンなどを企画・実施します。地域福祉のあり方について、問題の掘り起こしや研究・実践に取り組みます。

また、中原地区の自然環境を未来に残していくために、景観保全やごみ減量、清掃活動等の環境美化を推進します。



敬老事業 中原レストランの様子

(5) 安全で安心して暮らせるまち《 防犯防災安全部会 》

災害時に、一人の犠牲者を出すことのないよう、命を守る行動や防災・減災活動を実践し、地域のみんなが助け合って行動できるように訓練します。災害時には、地域間の連携が重要なことから、他協議会との連携を積極的に働きかけます。

また、普段の暮らしにおいても、安全安心に生活できるように、自主パトロールなど、防犯対策、見守り活動などに取り組みます。子どもたちが交通事故や怪我などしないよう通学路の安全対策を推進します。

4. 部会別の地域計画

(1) 中原の自慢を次代につなぐまち《 総務広報部会・開発企画部会 》

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1. 中原グルメフェスティバル	テーマ食材を栽培し、料理コンテスト等のイベントを通じて、地産地消と食育の大切さを考えていく。	自主	短期	R2～ (継続)	
2. 子ども食育体験(学校協働)	グルメフェスティバルに関連して、子どもたちに栽培・収穫体験や料理教室を実施し、食育の大切さを伝えていく。	自主	短期	R2～ (継続)	
3. 地域計画の見直し	計画の進捗状況の確認と、公共交通のあり方、福祉のあり方、買い物や配食サービスなど、今後の事業を計画する。	自主	長期	R2～ (継続)	
4. 広報誌発行	広報誌「中原いきいき通信」を発行する。 チラシでイベント情報を発信する。 SNS の活用を考えていく。	自主	短期	R2～ (継続)	通信 年2回 チラシ 随時
5. 自主財源の確保	ふるさと応援寄付金のPRをし、財源の確保をする。 農産物の販売等を通じた自主財源を考えていく。	自主	長期	R2～ (継続)	

(2) 体力づくりで笑顔と元気あふれるまち《 体育部会 》

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1. 運動会	地区民総ぐるみで参加し、楽しみながら体を動かし、コミュニケーションを図る機会とする。	自主	短期	R2～ (継続)	
2. 体力づくりスポーツ大会	バレーボール大会、グラウンドゴルフ大会、カローリング大会を実施。 誰でも参加できる軽スポーツを取り入れていく。	自主	短期	R2～ (継続)	

3.白米城ハイキング	歩くことの大切さについて、周知を図る。みんなでウォーキングし、コミュニケーションを図る。	自主	短期	R2～ (継続)	
------------	--	----	----	-------------	--

(3) 生きがいとふれあいが弾むまち《文化教育部会》

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1.文化祭	地域の方々の活動発表の場であり、交流の場として、地区文化祭を開催する。	自主	短期	R2～ (継続)	
2.異世代交流会	長寿会と小学6年生と一緒にスポーツを楽しみ、その後、ご飯を食べて交流する。	自主	短期	R2～ (継続)	
3.あいさつ運動	地域ぐるみであいさつを展開し、子どもたちへの声かけも積極的に行う。のぼり旗の設置。	自主	短期	R2～ (継続)	
4.幼稚園・小学校応援活動（学校協働）	幼稚園・小学校と連携を図りながら、子どもたちに昔の遊びを教えたり、読み聞かせをしたり、様々な体験をさせる。	自主	短期	R2～ (継続)	

(4) 自然と人をいたわるまち《福祉環境部会》

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1.敬老事業	地域の高齢者を敬い、健康な生活の応援をする。	自主	短期	R2～ (継続)	
2.福祉環境プロジェクト	敬老事業対象年齢に達していない高齢者層に対して、「負けるなコロナ」の思いを込めて、鉢植え等を送り、環境美化と元気づくりにつなげていく。	自主	短期	R2～ (新規)	
3.中原サロン事業	高齢者の方のコミュニケーションを図り、笑顔で元気に暮らす機会とする。	自主	短期	R2～ (継続)	

4.みんなの食堂事業	地域の食材を提供してもらい、誰でも気軽に食を通じたふれあいを実践する。	自主	短期	R 3	
5. 環境美化活動	ごみ処理場等の施設見学による環境への意識向上と、犬のフン防止の看板配布など地域への環境美化啓発を行う。	自主	短期	R2～ (継続)	

(5) 安全で安心して暮らせるまち《 防犯防災安全部会 》

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1. 防災対策	南海トラフ巨大地震を見据え、各部すべての事業に「防災」を組み入れる。 防災研修会を開催し、家具固定金具キャンペーンを実施する。 自治会ごとの避難マップを作成し、全戸配布する。	自主	長期	R2～ (継続)	
2. 防犯活動	自治会ごとの自主防犯パトロールの実施。 自治会ごとに管理する防犯灯について、LED 切り替えや修理等を行う。	自主	短期	R2～ (継続)	
3. 子ども見守り事業	児童生徒の登下校時に見守りパトロールを行い、交差点では安全指導を行う。 通学路の危険箇所の点検をし、安全対策を推進する。 交通安全のぼり旗の設置・交換。	自主	短期	R2～ (継続)	
4. 他協議会との連携	近隣協議会との連携協定の締結を推進する。	自主	2年～3年	R2～ (継続)	R 2 は、阿坂協議会計画